

HONTAN

図書館ボランティア「本探」が 第3号
 同の図書館情報をお知らせします 2009年 11月1日号

（WOW）な
 情報がいっぱい



Report★ 星学祭が行われた10月10日・11日

の2日間、みなさんはどのようにお過ごしでしたか。

HONTANは、カフェ部と合同で模擬店を出店し、成功をおさめることができました。当日ケーキを買って下さった方々、ありがとうございました。今年結成したHONTANですが、より多くの方と共に本の世界を探索していけるよう活動していきますので、よろしくお願ひ致します。

HONTAN
 展
 示
 み
 つ
 け
 て

DVD展示紹介

今回は「家族」「食べ物」など12のテーマに沿って展示しました。新入荷の話題作から知る人ぞ知るマイナー作品まで、POPを交えた楽しい展示になっています。

小説原作のコーナーでは図書館所蔵の原作小説も紹介しています。同じ作品を別の視点から眺めてみるのも楽しいかも？ ぜひご覧ください。
 企画者：とおか、なのか

11月の本探力

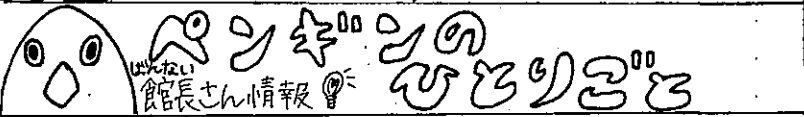
No.3 北星図書館の歴史

皆さんが利用している図書館が、以前は別の場所にあったことを知っていますか？

実は、かつて図書館はセンター棟にあったのです。

図書館が完成したのは91年4月。完成した当初はAVコーナーや4階は存在しませんでした。では、あの建物は、いつ完成したのか？ というと、03年4月に完成し、今の図書館になったのです。

だからDVDコーナーに行くとき微妙に足音が違うんですね。



実は、今年の図書館長は、短期大学部長の坂内 正先生です。館長さんがペンギンを好きになった理由は、見た目が可愛いだけでなく、平和愛好者だから。ペンギン達は、他の動物との争いをさけて、南極に住んでいるそうです。

Pick up MAGAZINES

HONTAN 雑誌の書評を紹介
 mina 12月号 (第9巻第11号) 251ページ
 「残るものはなににたって残るし、残らないものはなににたって残らないんだから」(『ハヴン』より)
 人気女性ファッション誌 mina 12月号には、「善悪の境界、人間の美しさについて考えさせられる冊子」という紹介文で、『ハヴン』がとりあげられています。主人公の感情の描写、「いじめ」をテーマにしたストーリーは、向き合うべき課題を提示してくれます。舞
 ⇒ 『ハヴン』 川上未映子 著 (913.6/K)

今月の1冊

内田 百閑 著
 「ちくま日本文学」
 内田 百閑
 918.6/C-1

「今まで出会ったことがないような、なんだかおかしい小説が読みたいな…」と思ったその貴方！
 内田百閑の作品はもう読みましたか？
 引き込まれる出だしに狂った展開、そして秀逸な終わりの一文に思わず「コレだ！」と唸るはず。
 豹が居間で笑い、口の中に毛が生え、夕日がいつまでも沈まず、丸ビルが消える…百閑は妙な作品を大正から昭和にかけて沢山残した作家です。
 思い切りおかしいのにリアルな感じがする所、クセになることうけあい！
 そんな先生自身は、ガンコで借金ばかりするけれど教え子には好かれる、キュートでおちゃめなおじさん。思わず笑ってしまう飄々とした随筆も大得意です。
 これ一冊で不思議な短編と面白い随筆、どちらもいっぱい読めます。お読みください！
 すっかりはまってしまったら、『百閑先生 月を踏む』(久世光彦著)も手にとってみてください。ニヤニヤできますよ！

HON TANKU PIECES

11月23日は勤労感謝の日。今年はいよいよ連休。HONTANKUがえらぶ「主人公が仕事熱心な本12冊を読んで、一生懸命働く人にエールを送ってみませんか。」

花蓮 有川浩 913.6/A
おすすめ 『フリーター、家を買う。』
正社員を3ヶ月でやめたフリーターが、母の病気を機に再就職をめざして奮闘する就職小説。

とおか 米澤穂信 913.6/Y
おすすめ 『犬はどこだ』
犬探し専門の「紺屋S&R」に舞い込んだ仕事は、思わぬ方向に転がっていく!?

なのか 石田衣良 913.6/I
おすすめ 『親指の恋人』
格差社会での恋愛。恋愛メインの内容ですが、「労働」に關しては結構リアル。ちょっとバタな現代版ロミジュリ。

N川 新野剛志 913.6/S
おすすめ 『あほやん』
主人公は新人あほやん(旅行会社の空港勤務社員)空港で働く人々が生き生きと描かれています!

卯月 有川浩 913.6/A
おすすめ 『ラブコメ今昔』
自衛隊ものが多い有川さんですが、この作品も自分の仕事に誇りを持っている自衛隊員が登場します。

きゆう 瀬尾まいこ 913.6/S
おすすめ 『強運の持ち主』
熱心とは遠いですが、ほどほどに相談者の悩みを解決する占い師の話。

Anne 多田淳子他 023.91/0
おすすめ 『女たちの本屋』
「表現としての書店」を実践して「本が好き!本屋をやりたい!」そんな思いから書店を開いた10人の女性経営者のお話。

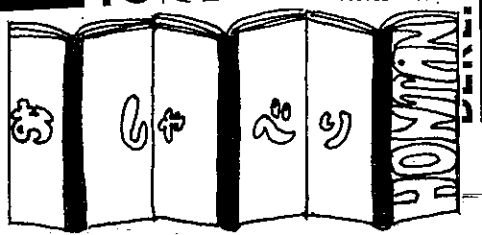
ななちゃん オグ・マンディーノ 933.7/M
おすすめ 『言葉の魔術師からの贈り物』
聞く者の心を打たずにはられないことばの魔術師。読み進めるうち、彼に魅了されます。

ちゅん アルファンス・ド・テー 岩波文庫
おすすめ 『月曜物語』より 953/D
『最後の授業』
普仏戦争で敗れた直後のフランスで、フランス語で行える最後の授業をアル先生が熱心にする...

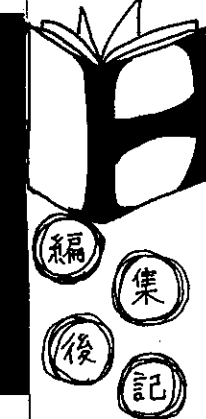
職員B子 山本兼一 913.6/Y
おすすめ 『火天の城』
安土城を建てた職人たちの気高き仕事ぶりを見よ!大工に石工に瓦工。映画上映中。

舞 山本文緒 913.6/Y
おすすめ 『絶好泣かない』
あなたはあなたの仕事が好きですか。何故働くのかを問う、15+1の短編集。

魚火 群ようこ 913.6/M
おすすめ 『かもめ食堂』
フィンランドで食堂を営む女性達と彼女を取巻く風土。主人公の潔さ・強い志が読んでいて素敵です。



佐野 洋子 作・絵 (726.6/S)
『百万回生きたねこ』に注目!



いよいよ冬間近、ご自宅でストーブをつけたという方も多くありません。寒さ故の病気に気をつけながら、晩秋の今、読書に勤んでみませんか。
私は今映画化されている太宰治の『サイロの妻』に興味津々です。
漁火

舞 みんなこの話、好きですか? 私は好き。このねこみたくなりたいな。でもきっと王さまもサーカスもおばあさんもどろほ"うも好きになっちゃうから、無理かな。
ななちゃん ねこが当たり前にいる人間みたいに描かれているから、最後やっぱり感動するね。

魚火 この作品には死・生という根源的なテーマがあると思います。子ども頃、人の死は怖くなかった。でも、祖父や、姉妹みたいな関係だった人が亡くなってからは、死に対して敏感になった気がします。ねこも大切な人ができて、その人が亡くなって初めて「死」が重くのしかかってきたのかなと思いました。

魚火 ナルシスティックな猫だな、連って思います。自分が好きと端的に表現されているけど、この猫は「ほんとうの愛情」というものがわからなかったんだと思います。白い猫をはじめで自分から愛したときに、今まで自分に向けられてきた愛情や悲しみの意味がわかったんじゃないかな。
卯月 この話は誰に向けた話なんだろかね。
N川 タイトルは『百万回生きたねこ』だけど、主人公の猫はたくさん生きたというより「百万回死んだ」という感じがするね。本当に生きたと思えたのは、白い猫に会った人生だけだったんじゃないかな。
B子 さいごに号泣する絵が、すごくいいと思います。